

教育

一般社団法人 現代教育研究協会

会 報

59

題字 樹本頼兼氏

(平成8年～平成20年 京都市長)

発行所

一般社団法人 現代教育研究協会

〒600-8216

京都市下京区不明門通七条下ル

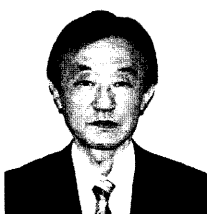
東塩小路町709番地

RYOKAN GINKAKU KYOTO 内

印刷所 (有)章美プリント

ご挨拶とお礼

会長 在田正秀



会員の皆様におかれましては、ご清祥のことと拝察申し上げます。

平素は、現代教育研究協会の諸活動にご理解とご協力を頂き誠に有り難うございます。

さて、昨年度の本会の活動は、足掛け四年にも及ぶコロナ感染拡大の繰り返しがようやく終息し、五月にはコロナ感染症が五類に引き下げられたことから、従前に近い形で講演会や見学研修会、懇親会が実施できました。昨年五月には、三月に文化庁が京都に移転したことを受け、京都国立博物館名誉館長の佐々

木丞平先生に、明治維新以来初となる中央官庁の大規模移転として、この度の文化庁移転の意義等を解説頂きました。また、本会創設者の森藤吉先生が初代校長を務められた京都市立塔南高校が四月に元洛陽工業高校の跡地に移転・再編され、校名も「開建高校」と改められたことから、九月に、最新の施設・設備の視察と尾崎校長先生から新校に寄せる期待と教育構想を聞かせて頂き、隔世の感を覚えたところです。

本年二月には、「味を聴く」と題して中東久雄様に食文化の奥深さや食育等についてご講演を頂き、その後に懇親会を開催致しましたが、本会が設立当初から本拠を置き、長らく改築中

で新装になった旅館銀閣を会場として開催できましたことは大きな喜びであり、久保田社長をはじめ関係の皆様感謝申し上げます。

昨年は、こうした三回の講演会(内容詳細は後述)に加え、泉涌寺塔頭・一條殿新善光寺で見学研修も実施でき、形式上は従前の活動に戻りましたが、課題も多くあると認識しております。

課題としては、会員の減少と高齢化、講演会等の参加者の減少と固定化、本会財政基盤の脆弱化等であり、会員の皆様と共有し、新規会員の勧誘や魅力的な講演会等の企画など、今年度から少しずつでも取組を進めて参りたいと考えております。

今後とも、会員・理事の皆様と相談・協議しながら、本会の運営を進めて参りたいと考えておりますので、会員の皆様におかれましては、ご意見・ご要望をお寄せいただければ大変有り難く存じます。

今年度も宜しくお願い致します。

第二回講演会

「京都を取り巻く文化環境」

令和五年五月二十七日(土)

京都大学名誉教授
京都国立博物館名誉館長

佐々木 丞平氏



一、「文化」とは何か
文化の「文」は、文章や言葉
模範のことです。「素(びん)」と
いう文字は、
両系が交差を
して模様を成
すという意味
があります
が、「文」の
もともとの意
味は「美しいもの」「美しさ」、
織物でいえば「文(あや)」、人
間であれば「美德」「徳」とな
ります。そして、文化の「化」は、
教化する、変えていくというこ
とです。人間が知恵と知性を働
かせて、つくりあげた人間の生
活にプラスになるような「文」
「飾り」を使って、人間そのもの
のや人間が生活する共同体(社
会)を変えていきます。つまり、
文化とは、人間の世界に秩序を
与え、思考や行為を巡らせ、作
用を及ぼすことによって達成で
きる生きるうえでの豊かさ、生
活の飾りとなります。

もの、より良いものを求めて、
服飾文化や建築デザイン文化を
生みました。また、お互いきち
んと生活できるよう法律(ルー
ル)という文化ができました。
経済活動も同様です。心の潤い
を求めて、便利なもの、少しで
も良い製品をつくらうと、企業
を起し、産業を展開します。
人間が少しでも快適な生活を手
に入れよう、少しでも美味しい
ものを食べよう、少しでも良い
着物を着ようと考え、行動する
ことは、文化的に生きるという
ことです。逆にいえば、文化は
人間にとって快適なもの、心の
潤い、生活の便利さを生み出す
ものといえます。

三、孔子の教え

孔子の『論語』では、まず人
間は親に孝を尽くしなさい。
それから、謹み深く誠実であり
なさい。そして、人々を愛し自
ら「仁」に親しくありなさいと
されています。孝を尽くし、誠
実であり、仁に親しくあるよう
努力して、なお余力があるなら
ば、文化を学びなさいとされて
います。人間の基本であるモラ
ルがしっかりといてないと、文
化を学び、理解することはでき

二、文化的に生きる

生命を維持するだけなら、動
物のように着物や建物はいらな
いですが、人間は、より美しい

ないというのが孔子の教えです。

四、文化の基盤としての文化財

文化の基盤として、その足跡が残されたものが文化財です。例えば、壁画から、古代社会の人物の姿や社会の仕組みが想像できます。平城宮の遺跡で発掘された木簡によって、当時の歴史が明るみになります。日本書紀が代々伝わり、現代の歴史書につながっています。万葉集、古今和歌集等によって、和歌の深い伝統と歴史を知り、和歌が歌い継がれてきています。歴史、宗教、美術、社会経済など、文化は文化財を通して、伝えられ、明らかにされてきました。

五、過去から学ぶ

明治期、それまでの「神仏習合」から、時の政府は国家宗教として神道を推したため、仏教が弾圧されました。また、文明改革として西洋文化への急激な変化の中で、政府は「新しい日本文化をつくるため、今までのものは全部捨てなければならぬ」との方針とし、多くの外国人技師を驚愕させました。他にも、姫路城はかつて百円で売りに出されて落札されましたが、取り壊し費用がかかりすぎるため、放置された結果、現在、世界遺産に認定されています。文化や文化財が軽視された時代があること、過去に起こったことを認識しておくことも大切です。

六、文化庁の発足

明治四年、古いものは捨てるのではなく守るとする「太政官

布告」が出されますが、文化財

を軽視する風潮は止まず、明治三十年「古社寺保存法」、昭和四年「国宝保存法」が成立します。それでも文化財への関心は低く、日本の文化財が諸外国に売られることが相次ぎました。危機感を覚えた有識者を中心に、昭和二十五年「文化財保護法」が成立し、文化財を保存・保護する役所として「文化財保護委員会」が発足します。そして、文化財の保存・保護に加えて、現代的で新しい芸術文化の振興、文化的な国際交流の促進を目的に、「文化財保護委員会」と文部省（当時）にあった課が合体し、昭和四十三年「文化庁」が発足します。そして、令和五年度に京都移転を迎えます。

七、文化庁の仕事（有形文化財）

寺社仏閣等の歴史的な有形文化財を重要文化財等に指定するという仕事があります。有形文化財は、建造物以外にも、絵画、彫刻、工芸品、出土品など数え切れないほどあります。その中から、日本の歴史全体を見て、国民全体の総意として、日本の文化にとって大変な価値のあるもの、後世に伝えていかなければならないものを指定します。なお、何百年と経過した文化財の修理・保存には、時間と根気、多額の費用を要する場合があることも認識しておきたいと思えます。

八、文化庁の仕事（無形文化財）

無形文化財とは、歌舞伎、陶芸、伝統工芸、民族芸能等の人

間国宝があたります。他にも、史跡、名勝、動植物、祈念物、遺跡等も同様です。また、上賀茂神社の社家、祇園、清水寺周辺等、文化的な景観や町並みといった一定のエリア・地区も無形文化財として指定されます。指定されると規制が厳しくなり、住民の方には不便・窮屈な面が出てきますが、そうしたことも認識しながら、後世に残すため、官民一体で理解・協力していくことが大切です。

九、文化庁の仕事（保存と活用）

歌舞伎や文楽等に加え、オーケストラ、ダンス、バレエ等の新しい芸術・芸能・文化活動の振興のため、役者個人や集団へのサポートも重要です。室町時代に作られた能面や着物は、それ以上使うと壊れてしまうため、しっかりと保存しますが、同時に、同じものをつくって、使って、見てもらって、歴史を継承していきます。保存と活用、継承を両面的に進めていくことが大切です。

十、文化庁の仕事（伝統と新しさのバランス）

漫画やアニメは、諸外国では日本を代表する文化と捉えられている面があります。これは無視できないことで、能楽や歌舞伎等の伝統芸能と漫画やアニメの新しい文化の両方をバランスよく発信・支援していくことが大切です。

十一、文化庁の京都移転

文化庁の仕事は多岐にわたる

ますが、今回、その機能の一部が京都に移転してきました。機能としては東京と半々、人員は六・七割が京都にきたことになりました。「なんだ半分程度か」と批判される方もいますが、首都機能が東京にあるため、各省庁との調整・折衝など、東京でないといけない仕事も多くあります。文化庁に過度に期待するのではなく、京都が蓄積してきた伝統的なブランド力は秀逸であり、移転を機に、そのブランド力にもっと磨きをかけるといふ姿勢が大切です。

十二、文化の基本は人間のモラル

文化は、美しい「文（あや）」を織り上げる総合美であり、それを最も実現できるのが京都という都市だと思っています。一本の糸が際立つということは決して悪いことではありませんが、そ

れだけでは全体の発展につながりません。各人が自分の糸を一本一本磨きあげ、互いに連携しあいながら、大きな織物をつくるのが大切です。冒頭に紹介した孔子の言葉に「文化の基本は人間のモラル」というものがありました。若い人に、文化とは何かということを教育するとともに、モラル教育が必要で

す。モラル教育が芽生えてこなければ文化の目覚めが起きません。このモラルとは、人間の健康や幸せのためには何が正しいかを判断する能力のことです。例えば、平和とは、幸せとは、エコ（環境）教育、地域コミュニティ、これはモラル教育といえます。こうしたことをきちんと教育現場でも伝えていければ、自然と「文化」ということに収斂されていくと思います。

第二回講演会

「開建高校がめざす

学びの実現に向けて」

令和五年九月三十日（土）

京都市立開建高等学校

校長 尾崎嘉彦氏

一、「開建」とは

塔南高校を移転・再編し、旧洛陽工業高校の跡地に令和五年四月に開校しました。校名「開建」は、かつて平安京の「開建坊」と呼ばれていた地域の歴史を大切にしました。「開」「建」には、次代を開き、新たな創造

を生み出すという思いを込めています。なお、正門の校銘板は、地元在住で塔南高校の卒業生でもある書家・祥洲先生の揮毫です。祥洲先生は、NHK大河「軍司官兵衛」や京都パープルサンガのスローガンも揮毫されています。

二. 府内唯一の新しい普通科

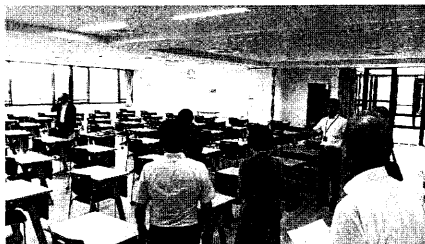
文部科学省が高校普通科の特色化・魅力化を推進しており、高等学校設置基準に「その他普通教育を施す学科」が新設されました。開建高校普通科「ルミノベーション科」は、その新設された学科に位置付けられた京都府内で唯一の高校です。

三. 「やってみたいをやってみる」

「より良い未来をめざし、個性を活かして社会を協創する生徒の育成」の教育目標のもと、目指す資質・能力は「挑戦力」「対話力」「協働力」「学び続ける力」「思いやる心」「社会に貢献する志」の六つです。キャッチフレーズは『やってみたいをやってみる』。夢中になる学びがある。学ぶ楽しさや喜び、考えることの素晴らしさを体験してほしいと願っています。

四. L-pood (ラーニングポッド) 教室

「L-pood」教室とは、普通教室の広さ、机・椅子も可動式で、八十人一斉授業から少人数でのグループワークまで、自由に使える空間が広がります。



す。この空間を生かし、ICTも活用しながら、「学びを楽しむ」をキーワードに、「伝える、教え込む」から「考えて至らせる」授業へとシフトチェンジしています。

五. コアスキルカード

本校が独自開発した「コアスキルカード」は、思考のヒントや多面的な見方を助けるアドバースが記されたカードで、生徒が多様な学び方を習得する手助けをします。生徒はカードを活用し、考えを整理したり、議論のアイデアを練ったり、自分の意見を振り返ったりします。

六. 生徒が主体(校則のない学校)

球技大会、文化祭、研修旅行等の行事も、生徒が企画、準備、運営まで主体的に行います。また、校則はありませんが、服装も自由で茶髪やピアスの生徒もいます。やめさせること、規則(校則)をつくることは簡単ですが、生徒との対話を通じて、TPOに応じて、ふさわしいことを自ら考えられるようにしていきたいと考えています。



第三回講演会

令和六年二月三日(土)

「味を聴く」

「草喰なかがし」店主

中 東 久 雄 氏

一. お百姓さんの言葉

二十七年前、料理人になって生まれ育った山から町に出てきました。中央市場では



納得できる食材に出会えなかったため、生産者を廻っていた時、お百姓さんに

「私ら百姓は野菜を作っているのと違う。土を作っている。ええ土を作ったら、種をまくだけ。水と太陽の恵みで野菜は育つ。出来損ないの野菜をどう料理するかが料理人の役目ではないか。」この言葉に大変ショックを受け、それから曲がった野菜なんかもすべて持ちかえることにしています。

二. 野菜も野草

私の店も全国から多くのお客様さんが来られるようになったため、大原朝市で仕入れる野菜だけでは足りなくなり、直接畑を廻って野菜を仕入れはじめました。ある畑で大根の種をつまんで食べるととても美味しかったです。今の大根は大量生産で効率

よく大きく成長させるために加工されていますが、自然の中で農家が作られる野菜は野草であって種も美味しいものです。

三. 「味を聴く」

聞き耳や目利きという言葉があるように、音にならないものを聴く、目に見えないものを見る、心や感覚で感じるといことがあります。食べることも同様です。例えば刺身は、切っただけのシンプルな料理ですが、まず醤油の味がして、それからワサビがきいて、最後に魚の脂と旨味がきます。そして喉を通るとき、最も味や香りを感じます。目を閉じると産地や海の様子、調理法まで、色々な情景が浮かんできます。これを「味を聴く」といっています。

四. 食育授業

「日本料理アカデミー」の一員として、学校で食育授業をしています。二十年以上前、門川前市長が教育長時代、こんな料理を子どもたちにも食べさせてあげたいと言われました。食育、基本法もまだない時でしたが、食育授業が始まりました。小学校五、六年生の舌が一番敏感だそうですが、授業では出汁を味

わつてもらいます。昆布だけでは「磯臭い」、鰹だけでは「魚臭い」となりませんが、昆布と鰹を合わせた出汁は「美味しい」となります。味覚は味を覚えると書きますが、聴くと覚えるは違います。

五. 野菜を買うのは命をうつこと

もともと野に生えていた大根や人参を人間が育てるようになったのが弥生時代です。現在は、安心安全、大量生産が優先されるため、農薬を使わずに野生に近い野菜や野草はなかなか出会えません。ただ、大原朝市では、作り手の顔が見え、丹精が込められているのを感じられるため、曲がった野菜も輝いて見えます。食べる時は、明日へ命をつなぐためです。贅沢をするのでなく、食べたものが骨身になって、心にまで栄養としていきわたっていく、お腹が膨れるとともに、五感を通して心が豊かになります。朝市で野菜を買うことは、命を買うことと同義だと思っています。

六. 食べられるものはすべて無駄にしない

食べることで自分の体を守ります。医食同源です。そして、何を食べればよいのか、誰がどのようなことを考えたのか、そういうことを考えながら食べる、お客さんにもできるだけそうしたことが見えるようにしています。そして、食べられるものはすべて無駄にしない、食べられるものは食べ尽くすようにしています。

七．命をいただく

どうしても余ってしまった野菜や米は養鶏場でエサにしています。そして、鶏の糞を肥料にして葱を育て、葱が美味しくなる時期から、鶏肉と葱を使ったすき焼きをお出しします。毎日のようにエサを持っていけますから、鶏も私の顔を覚えていてくれるようです。絞めるのが可哀そうになりますが、命をいただくということなのです。

八．できるだけ素材をそのまま食べる

日本料理は季節や歳時に合わせて器や皿を変えます。西洋料理は器や皿を変えるのは稀で、多くはソースや付け合せを変えますが、日本料理は旬の素材をより感じてもらうため、素材をできるだけそのまま食べます。素材を引きだして、季節を感じるため、器や皿も変えるわけです。

九．食への感謝

持続可能ということ、国連がSDGsを啓発していますが、いまいち普及しないのは、そこに「感謝」が含まれていないからだと考えています。日本人は食前後に「いただきます」「ご馳走様」と言います。命をいただく感謝があります。生産から料理まで、色々な道を辿ってきたことに思いを巡らせるわけです。それにお箸を横向きに置きます。外国人の方はナイフ・フォークを縦向きにされる。何故お箸を横向きに置くのか。それは結界を意味しています。向

こう側は神様からの授かりものを置くところ、こちら側は自分が食べるところということがあります。神様から授かったものを神様とともに食べる。「橋（箸）渡し」です。

十．子どもたちに伝える

百姓は女に生まれると書きまです。女性が百人集まると、みんなで収穫して喜ぶということですが、日本には収穫祭というものがありません。十一月二十三日勤労感謝の日は、新嘗祭の日でもあります。天皇陛下が初穂を神々にお供えし、五穀豊穡に感謝を捧げ、祈念されます。飛鳥時代から続く重要な宮中祭祀ですが、戦後、GHQが宗教的な祭祀を嫌い、勤労感謝の日に変えたと言われています。私は収穫祭や新嘗祭があるべきと考えています。食への感謝や考え方を子どもたちに伝えていきたい。伝えていく必要があると思うからです。

十一．食べるとは

今日二月三日は節分ですが、十度を超えています。暖かいから助かるでは済ませられません。異常気象、温暖化の問題は、すべて人間が原因です。人間が賢いのはよいことですが、欲望と理性を並行できない。肉食動物は空腹時しか獲物を襲いませんが、人間は効率的に貯蔵することを知っています。縄文時代に作物をつくりはじめ、いかに効率的に多く収穫するか。そこから貧富の差が生まれはじめ、ずっと争いが続いています。能登半

島地震の映像をみると大変痛ましい気持ちになります。食べるものが食べられない社会になったとき、自分がどのように行動するのか、考えないといけない。戦後の体験もありますが、子どもたちから食べるとはどのようなことを教えていかなければいけないと思っています。

十二．いかに食事が大切か

農林水産省から「料理マスターズ」の認証を受けました。全国に百人いますが、料理が上手いだけでなく、生産者や自然環境等にも配慮している料理人が選定されています。食は人を良くすると書きますが、食べることを通じて、自然や環境の大切さに気付くことがあります。大勢と食べれば人と人のコミュニケーションも高まります。人間は土の上に立っています。足を通じて栄養はとれません。口からしかとれない。いかに食事が大切かということです。

十三．若い人たちへ

今の若い人は大変優れていますが、食えることが作業になっているのではと感じます。お腹が空いたから食べる。ガソリンスタンドで給油しているのと同じです。例えば、あの時食べた大根が美味しかった。だから、どこかの産地か調べて買いに行く。そうしたことを考え、手間をかけるからこそ、より美味しく感謝しながらいただける。食について考え、思いを巡らせる。と幸せにつながるということを、知ってほしいと思います。昔は

草に古いと書きます。草は古くなると肥料になります。苦労は買つてでもしろと言いますが、

研修会（見学） 泉涌寺塔頭

一条殿新善光寺 及び泉山幼稚園

一条殿新善光寺は寛元元年（一二四三年）八月、後嵯峨天皇の勅願により創建され、ご本尊の阿弥陀如来立像は信州善光寺阿弥陀如来と同仏同体に鑄造されたものです。

折しも秋の特別拝観の期間で、紅葉が鮮やかな中ご住職のご案内で、大玄閣、大方丈、本堂、さらには普段非公



開の皇室ゆらいの御遺品等を見学しました。

引き続き、ご住職が園長をされている隣接の泉山幼稚園を見学しました。泉涌寺の境内から続く豊かな自然の中、五十年前に建設されたとは思えない開放的な園舎で、遊びと体験を重ねる子どもたちの姿を思い浮かべながら就学前教育の大切さを痛感しました。



編集後記

新型コロナウイルスの感染症第五類への移行によって、年間三回の講演会、一回の研修会を計画通りに実施することができませんでした。一方、本号より四ページの紙面構成となったため、講演会の記録は要旨を踏まえて約半分の長さになっています。ご了承ください。また、令和六年四月より、事務局住所が本協会ゆかりの地「銀閣」に戻りましたのでご確認ください。

一般社団法人 現代教育研究協会

◆事務局住所

〒600-8216 京都市下京区不明門通七条下ル
東塩小路町 709 番地
RYOKAN GINKAKU KYOTO 内
団体ホームページ <http://www.gendaikyoku.org>

◆入会のお問い合わせ

メールアドレス Kyotogendaikyoku@gmail.com
(メールには、お名前、フリガナ、メールアドレス、電話番号を明記してください。)